

## ✿ 「文化的景観学」検討会・公開ワークショップの開催

景観研究室では、分野を横断して文化的景観を論じる試みとして9名の外部有識者と「文化的景観学」検討会を立ち上げ、「学」としての文化的景観のフレームや可能性について検討してきました。そして、この検討会で描いてきたアウトラインについてさらに検討を深めることを目的とし、公開ワークショップというかたちで2014年6月30日に40名余りの研究者・行政担当者等とのディスカッションの場を設け、6班に分かれて議論をおこないました。

まず、議論の前半では、文化的景観のこれまでの取組における課題について検討しました。文化的景観は、多様な専門を引き寄せる魅力がある反面、その課題として、地域の主体性の醸成や文化的景観の価値共有の必要性、現状維持や事業の調整の難しさについて確認・共有しました。

議論後半では、文化的景観学のとらえ方、文化的景観を使って何をするのか、何ができるのか、について検討しました。ここでは、文化的景観学への期待として、文化的景観に取り組む人々を支えたり、個別の調査から価値評価の枠組を組み立てたりする「学」の必要性が指摘されました。いっぽうで、文化的景観を「学」として成り立たせるためには、文化的景観の保護に関する経験を深めておくことや、文化的景観の理論を確立させることが必要だが、現状では未熟であるといった指摘もありました。

文化的景観保護行政を支えるための「学」をいかにつくり上げていくか、実践から離れることなく今後も議論を深めていきたいと思います。

(文化遺産部 恵谷 浩子)



発表の様子 (キャンパスプラザ京都)